



日出谷小だより

学校教育目標【明日をつくる日出谷の子】

目指す学校像 **ひ**かる瞳 **で**っかい夢 **や**りぬく力 が育つ日出谷小学校

令和7年 年のはじめに

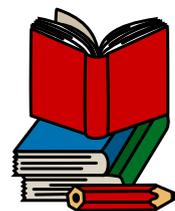
校長 須田 肇

新年あけましておめでとうございます。保護者・地域の皆さまには、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、以前話題にした16歳未満のSNS禁止法がオーストラリアで可決されました。今後子供たちにどう影響していくのかが大変興味深いところです。今回もSNSに関連して、日本の子供たちの「読解力」「表現力」が低下しているという話です。ずいぶん前から問題になっており、学校でもそれを意識して指導しているところです。

具体的には、『「この公園には滑り台をする。」といった、「主語・述語が不明確で、意味が通じない」「前後のつながりを考えていない」表現が多く見られるということ』、『「言葉を表面的にしか受け取れず、物語の登場人物の心情が理解できない」ということ』、『発表で、「そして」…、「そして」…、「そして」…と連発し、他の接続詞が使えないということ』といった例が挙げられます。

小学生の子供は、「言葉を表面的かつ部分的にしか受け取れない、全体的話の流れを理解できず、一部の言葉のみで判断してしまう」ということがあります。しかし、上記の例は、高校生や大学生の話です。読解力や表現力の低下は、社会に出てからも本人への障壁となる可能性があります。



「読解力」「表現力」の低下の「要因」として、文部科学省は「SNSなどによる短文のやりとりの増加で、長文を読み書きする機会が減少したこと」「子供たちの言語環境が急激に変わり、読書などで長文に触れる機会が減ったこと」を挙げています。別の教育者も、「SNSは、「単語や略語だけで通じる」「『スタンプ』を使えば、感情を言葉にする必要もない」「読書を通じて正しい日本語に触れる機会も減っている上に、『正しく書かなくてもいい』環境になっている」と指摘しています。

そこで、小学生のうちから、長文に慣れ親しむ習慣をつけていくことが重要です。「読書や作文」「主語や述語・接続詞を意識した会話や文章作成」「会話において、単語のみでのやり取りを避けること」等、小学生のうちから「長文を『読む・書く』」ことや「正しい言葉の使い方」を意識させることが大切です。新年の目標として、前述の内容をご家庭でも意識することを付け加えていただければ幸いです。今年も学校とご家庭で、手を取り合って子供に力をつけていきましょう。

学校評価へのご協力ありがとうございます

★★●●●●●●●●●●●●●●●●●●☆☆

貴重なご意見、ありがとうございます。どれもたいへん参考になるご意見でした。今年度もよい評価も多くいただきました。よくないことは強く印象に残るためか、悪い評価が多くなる傾向があります。そこは大いに反省しなくてはならないことですが、同じ教育活動でもよくないというご意見だけの場合と、よかったという意見もある場合は改善内容に大きな違いが生じてきます。ご多用の中ご意見をいただいた全ての皆様方に感謝いたします。